

# シャネルに目覚めた時

人はどんな想いでシャネルを装うのでしょうか。ある時はその強い個性に反発を感じ、ある時はそのシックさに脱帽して……。シャネルがお好きな四人の方に、シャネルへの目覚めの時をうかがいました

## 白いカメラに魅せられて

田口和子さん コーディネーター

「仕事仲間を自宅にお招きして、バースデイパーティーをひらいたことがあります。普段はお化粧もしない方が、椿が好きだという私のために、シャネルのカメラアアをつけて、きちんとルージュをひいて来てくださいました。この心がうれしくて……」

サテンの縁どりのニットを素敵に着こなしていらつしやる田口さんは、こういう心遣いを忘れたくないとご自身でも買い求められたそうです。

「シャネルのカメラはしよせん造花ですが、花びらのふくらみや花芯を見つめていると、なんとなくいとおしくて。いつの間にかいろいろと集めるようになっていました」

中でも白いものが好きとか。

「ちよつと顔色が悪いときは、顔に近いところにつけると肌色がきれいに見えます。明るく強い色のドレスや黒を着るときは、ウエストとか肩につけると、単色で着るよりはつとエレガントに見せてくれます」

田口和子さん



高野さんの愛用するシャネルN°19と化粧品

## スクリーンから始まった私のシャネル

高野の 高野さん 映画のシャネルを見つけていました。シャネルの服を着たジャンヌ・モローや、ロミイ・シュナイダーはとても素晴らしいわ。でも、彼女たちが素敵なのは正統派の美人だから。とても自分には似合わないと思っていたの。シャネルに片想いだったとおっしゃるもの、二十代のころから香水はシャネルN°5とN°19を愛用。化粧品もいつの間にかシャネルのものが増えていきました。シャネルのパウダーやルージュは私の肌質や、顔の色にじっくりくるんです。アクセサリーは、いつも、なるべくロゴが目立たないものを選びます。だつて身につけているとき、素敵ね、どこのなの？ って聞かれるほうがいいでしょ、という理由から。パリに行く機会が増えた最近では、昔と少しずつ考え方が変わってきたとか。街角で年配のママムが素敵にシャネルを着ているのを見てたら、いつかは着てみたいと思うようになったんです」

## 十代のころから憧れ続け、いまつと自分のものに

安藤和津さん キャスター

スーツからアクセサリー、バッグに至るまでシャネルを愛用している安藤さん。お洒落なご両親に影響されて、すでに中学生のときにはシャネルに憧れを持たれていたそうです。「はじめてシャネルを手にしたのは二十歳のとき。母からプレゼントされたバッグでした」。その後はお祖母さまからもバッグを贈られたり、ご自身でもアクセサリーを買うように。「二十代のころは小物を持つのがせいぜい。一流の物というのは、成熟した大人にこそふさわしい物ですからね」そして三十代半ば、結婚、出産を経て、リポーターやキャスターとして活躍するようになった安藤さんは、やつとシャネルスーツが自分で買えるようになり、「大人」と自覚したとか。「シャネルの服は講演会の時や、大切な人に会う時の気分をぴつたり合ふんです。自分自身に緊張感を与えてくれる服ですから」シャネルを着こなすには、自分のお洒落が確立していないと着られてしまうということをこう話してくださいました。



パリで捜し出した髪飾り

20歳のお祖母さまに贈られたバッグ

## 三十歳までは遊び心のある着こなしを

アガタ・モレシヤンさん リポーター

「二十歳のころ、母フランソワ・モレシヤンさんからシャネルのジャケットを借りてパーティーに出席したんです」その時のアガタさんのスタイルは左の写真の服装のように、シャネルのネイビージャケットにジーンズをプラスしたものです。そのコーディネートをお母さまは大変ほめられたとか。私たちにはちよつと意外なコーディネートです。シャネルはすぐく幅の広いブランド。エレガントでもカジュアルでも、着る人が自由に演出できるんです。私がシャネルスーツをシックに着れるのはもつと先。いまの私は二十六歳にふさわしい着こなしに挑戦したいもの」とアガタさん。現在、ご自身で持っているシャネルのアイテムはスカーフ、手袋、ネックレス、イヤリングなど。こういった小物をカジュアルな服や靴と、わざと合わせて着るのが、いまのアガタさん流の着こなし。とりあえず三十歳までは思いつき遊びのシャネルを楽しむの「自分流の着こなしを楽しむアガタさんに見習う所がありそうです」

スカーフはお友だちから、アクセサリーは去年買い求めた

